

# TICADVI 安全の手引き (2016年7月現在)



TICADVIが開催されるケニアアッタ国際会議場(KICC)

## 在ケニア日本国大使館

住所 Mara Road, Upper Hill, Nairobi,  
Kenya

電話 +254-(0)20-2898000

FAX +254-(0)20-2898220

<http://www.ke.emb-japan.go.jp/j-index.html>

## 1 渡航前にしておくこと

ナイロビは世界有数の犯罪発生率が高い都市であり、またテロに遭遇したり黄熱に罹患する可能性も否定できません。犯罪被害に遭わず、かつ、病気にならないためには、何よりも事前の準備が大切です。

以下の取り組みは日本国内において準備できる安全対策です。ケニアへの渡航前に、ご一読をお願いいたします。

### ■自動メール配信サービスへの登録

・外務省「たびレジ」

緊急事態が発生した場合、緊急一斉通報によるメールなど、安全に関する情報を自動的に受け取ることができます。

<http://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>

### ■予防接種について

・ケニアは黄熱汚染国であるため、黄熱ワクチン接種が推奨されます。

・行動日程により他にも推奨される予防接種があるため、詳しくは医療機関へご相談下さい。

・厚生労働省検疫所(FORTH)のホームページ

<http://www.forth.go.jp/news/2016/06210854.html>



## 2 一般犯罪

ケニア国内での一般犯罪発生数はナイロビ市が突出しています。また、スリ、置き引き等の軽犯罪だけでなく強盗殺人やカージャック等の重大犯罪も頻発しており、強盗と警察官の銃撃戦が発生することもあります。

## 3 テロ情勢

ケニア沿岸部や北東部では、過激派組織によるテロが発生しています。ナイロビ市においては2014年以降、死者を伴った大規模なテロは発生していませんが、テロの脅威は存在し、注意が必要です。

近年発生したテロ事件・未遂事件は以下のとおりです。

・ 2015年10月10日

ナイロビ中心部のキオスクでIED爆弾が爆発(週末であったため死傷者なし)。

・ 2016年4月10日

イスラム過激派組織(アル・シャバーブ)がワジヤ郡(ソマリア国境)の警察署を襲撃して、警察官が負傷、警察車両が盗まれる。

・ 2016年4月下旬

炭疽菌によるバイオ・テロ攻撃を計画していたISILを支持する大学生等の逮捕。

## 4 事件に巻き込まれないために

### ■ 自衛のための基本的な対処法

- ・ 自分の身は自分で守る(海外渡航の基本)。
- ・ 情報を収集する。
- ・ たびレジに登録する(1ページ参照)。
- ・ 人混みや外国人が多く集まる場所にはできるだけ近づかない。
- ・ 安全対策を十分講じているホテルを選ぶ。
- ・ パスポートや財布、携帯電話は肌身離さず携帯する。
- ・ タクシー等の車に乗車した際もドアは確実に施錠し、窓の開閉は必要最低限とする。
- ・ 夜間・早朝に外出しない。
- ・ 貴重品の管理を徹底し、バッグや荷物を手放さない。
- ・ スリや強盗を避けるため、マタツ(乗り合いバス)に乗らない。
- ・ 買い物は、人で混み合う時間帯を避ける。
- ・ 正面エントランスでの待ち合わせを避ける。
- ・ 不審な人物発見時は、その場から離れる。
- ・ 爆発音・銃撃音を聞いたら…  
直ちに伏せる→柱・壁などに身を隠す→現場から退避。
- ・ テロ現場に近付かない(第2波攻撃のおそれ)。
- ・ テロ事件発生時は、外出を避ける(同時多発テロのおそれ)。

### ■ テロの標的となりやすい施設

- ・ 政府関連施設
- ・ 軍・警察関連施設、車両
- ・ 外交団・国際関係施設
- ・ 米、英、イスラエル等の西側権益施設
- ・ ショッピング・センター、レストラン、ナイトクラブ、イベント会場、観光施設
- ・ キリスト教会、ホテル、大学・教育施設
- ・ 航空機・空港、列車・駅などの交通機関

### ■ 空港での安全対策

- ・ 服装・行動は目立たないようにする。
- ・ 荷物は原則として肌身離さず持つ。
- ・ 出発の場合、すぐにチェックインを済ませ、セキュリティを通過する(出発ロビーに長居しない)。
- ・ 見知らぬ人からは手紙や荷物を預からない。
- ・ 荷物用タグはカバーがかかるものを使用し、氏名と携帯電話番号のみ記載する。
- ・ 見知らぬ人とむやみに会話しない。

### ■ ホテルでの安全対策

- ・ 警備体制のしっかりしたホテルを選ぶ(できるだけ通りに面していない部屋を)。
- ・ ホテルのロビーやレストランでは置き引き等の犯罪被害に遭いやすいので長居しない。
- ・ 必要以上に自分に関する情報は話さない。
- ・ ホテルの部屋のドアは常に鍵・チェーンをかける。
- ・ 訪問者が来てもドアを閉めたまま対応する。
- ・ 不審に思ったらドアを開けずに電話でフロントに確認する。
- ・ 非常口を確認しておく。
- ・ 在室中はカーテンを閉めておく(ガラス飛散防止)。
- ・ 正面エントランスの待ち合わせを避ける。

### ■ 外出時の安全対策

- ・ 夜間・早朝の外出は控える。
- ・ 徒歩での外出は極力控え、近くても車で移動する(可能な限り複数で行動する)。
- ・ 目立たない服装を心掛ける。
- ・ 所持品は奪われても後悔しないものだけを持ち歩く。
- ・ 携帯電話・スマートフォンは、建物の中などでのみ使用する。

## 5 事件に巻き込まれたら

- ・ 「自分の命以上に大事なものは無い」と肝に銘じ、絶対に抵抗しない。
- ・ ゆっくりと両手を上げ、抵抗する気がないことを犯人に示す。
- ・ ゆっくりとした動作で犯人に現金の入っている場所を示す(急に動くと、犯人に武器を取り出すと勘違いされ、攻撃される危険性がある)。
- ・ 犯人の様子に注意しながら、ゆっくりとした動作で現金を取り出す。
- ・ 現金を犯人に渡し、ゆっくりと犯人から離れる。



ナイロビ市内を走るマタツにはくれぐれも乗らないように！